

平成31年2月18日(月)



# 東京都立八王子特別支援学校 平成30年度 全国公開研究会

研究テーマ

「ことばの力を育てる・

知的障害教育における教科指導」

～自立活動をベースにした教科指導の充実～



# 東京都立八王子特別支援学校 「はちとく・・action plan！」

## めざす学校像

- ◆ 児童・生徒の人権を尊重し、一人一人に応じた専門的な教育を推進することにより、豊かな人間性や社会性を育み、地域社会の一員として社会参加・自立できる人材を育成する。
- ◆ 特別支援教育のセンター的機能を発揮し、地域との連携の中で、共生社会の文化を地域に築くための理解啓発を推進し、児童・生徒の社会参加を促進する。

## 学校教育目標

- 健康な身体と豊かな心をはぐくむ。
- 個性を生かし、主体性をはぐくみ、生活する力を育てる。
- 仲間を思いやり、仲間と協力する力を育てる。
- 自ら考え、判断し、表現して行動する力を育てる。
- 社会の一員として、働く意欲と自立する力を育てる。



## 目指す方向

### =研究主題=



## ことばを育てる・知的障害教育における教科指導 ～自立活動をベースとした教科指導の充実～

【八王子地区第二特別支援学校（仮称）基本計画 検討委員会 報告書を反映】

### 自発的な活動を引き出す指導の充実



#### ◆学習指導

- ・4つの基盤（実態把握・教育環境・手立て・動機付け）をベースとしたアクティブラーニングの授業
- ・言語機能アセスメントやJ－s K e pアセスメント等による「ことば」の表出力の伸長
- ・「手帳」を活用した系統的なスケジュール指導
- ・東京藝術大学等と連携した芸術教育の推進
- ・アートプロジェクト展等への積極的な応募による芸術活動への意欲の喚起
- ・FC東京等との連携、パラリンピアン等との派遣等を通したオリンピック競技を意識した活動の推進  
【スポーツ教育推進事業指定校】
- ・一人一人の発達を踏まえた体力向上の取組  
（アクティブプラン to 2020）

#### ◆生活指導

- ・人権尊重教育による「体罰ゼロ」の徹底
- ・学校いじめ対策委員会による「いじめゼロ」の徹底
- ・「事故ゼロ」を目指した校舎内外の危険箇所の整備と点検の徹底
- ・「事件ゼロ」を徹底する  
「生徒心得」による規範意識の醸成  
SNS東京ルールを踏まえた取組の推進
- ・「自殺ゼロ」を徹底するためのストレスの対処法  
SOSの出し方に関する教育の推進
- ・保護者と連携した計画的な一人通学の実施
- ・BCPの視点による、学校危機管理マニュアルに基づいた具体的な避難訓練の実施
- ・首都直下地震等を想定した地域連携消防防災訓練

#### ◆進路指導

- ・学部間連携による系統的なキャリア教育の推進
- ・就業体験等の課題を、学習活動にフィードバックさせる仕組みづくりとその実施
- ・企業、寄宿舎等を活用した作業学習の展開  
⇒生徒の能力の般化と生徒への理解啓発
- ・個別移行支援計画、支援会議を活用した  
進路選択・進路決定
- ・支援機関と連携した卒業生への  
アフターケア（アフタースクール）  
による卒業生の職場定着支援



#### ◆特別活動・健康づくり

- ・近隣の小・中学校や副籍指定校との連携による交流及び共同学習の充実
- ・部活動や同好会活動の充実  
⇒競技会やコンクール等への積極的な参加
- ・オリンピック・パラリンピック精神に則り、異文化の学びと社会貢献活動の実施  
【社会貢献モデル事業指定校】
- ・担任、学年、栄養士、養護教諭、保護者と連携した適切なアレルギー対応
- ・栄養士と連携した食育の推進
- ・肥満防止等成人病予防による健康教育の充実

### 教育活動における専門性の向上

- ・外部専門員や関係機関と連携した校内研修会の実施
- ・研究テーマに従った実践研究による授業力の向上
- ・求められる指導の視点を明らかにした全員研究授業の実施
- ・実践研究を通した教員の専門性向上と人権感覚の醸成

【人権尊重教育推進校】

- ・個に応じた教材（ICT含む）開発と教材の効果的な活用を共有する教材教具発表会の実施
- ・健全育成や思春期に顕在化する課題解決に向け、心理学をふまえた対応の確立



### 共生社会の実現を目指したセンター的機能の充実

- ・八王子市教育委員会等と連携した特別支援教育を推進
- ・地域の幼稚園や保育園と連携した出張幼児教室の実施
- ・就学予定の幼児を対象としたプレスクールの実施
- ・幼稚園、保育園、小学校、中学校、高等学校の相談や研修の支援
- ・副籍事業の間接交流から直接交流への移行
- ・企業、就労関係機関等への学校見学日の設定による障害理解啓発
- ・HPのリニューアルと積極的な更新により教育内容の情報発信
- ・「GOODニュース」「アクションプラン」による情報発信
- ・余暇につなげる「サタデースクール」の実施

【放課後子供教室推進事業指定校】

### 適正かつ合理的・効率的な組織運営

- ・児童・生徒のロールモデルとして、丁寧な対応と挨拶の徹底
- ・教職員の人権意識の醸成による「くん・さん」付けの徹底
- ・個人情報管理についての規定の強化と個人情報紛失防止の徹底
- ・研修等による「服務事故ゼロ」の徹底
- ・プロジェクトチームによる迅速で効果的な課題解決
- ・掲示板等の効果的な活用による、業務の効率化
- ・質の向上とムリムダ削減のためのPTによる業務改善【働き方改革】
- ・都庁ルールに合わせた教職員「20時退勤」の促進【働き方改革】
- ・学校全体のコスト意識を高め適正な自律経営予算の策定と執行
- ・計画に基づいたスムーズな分離及び移転に向けての準備

平成31年2月18日(月)



# 東京都立八王子特別支援学校 平成30年度 全国公開研究会

研究テーマ

「ことばの力を育てる・

知的障害教育における教科指導」

～自立活動をベースにした教科指導の充実～



東京都立八王子特別支援学校  
平成30年度 全国公開研究会

# 研究概要

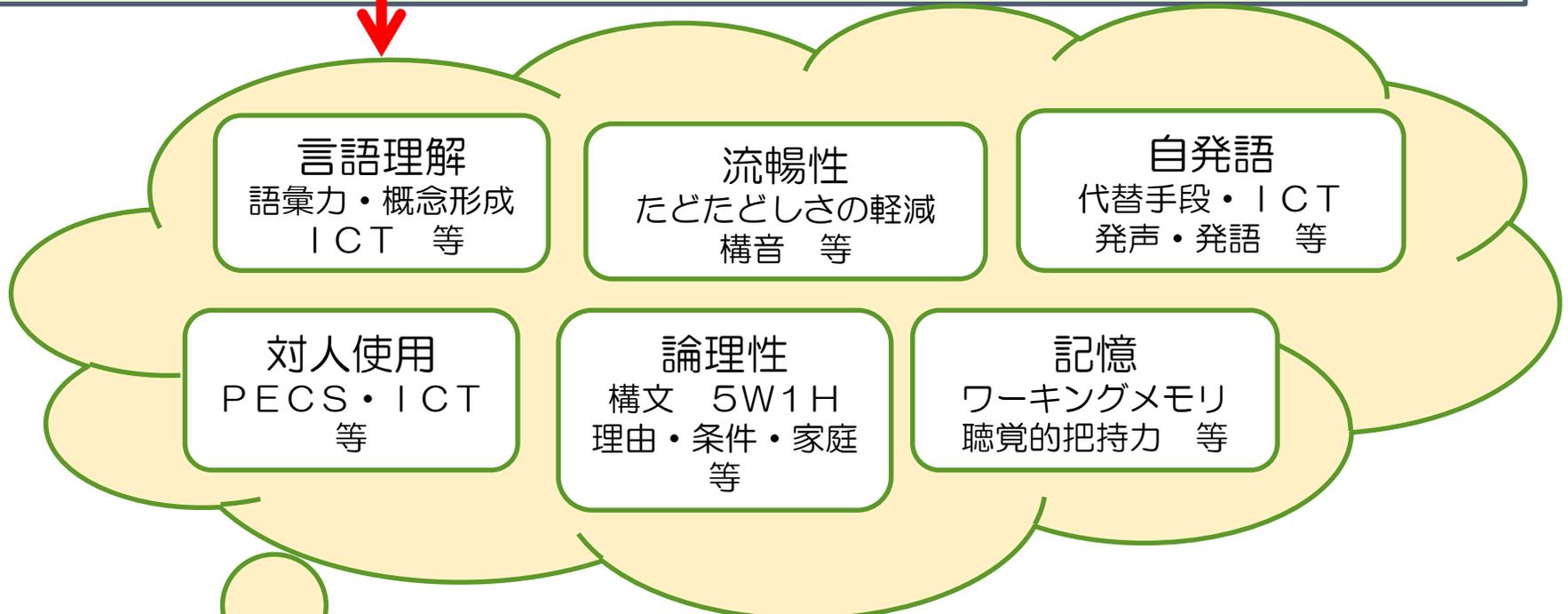
「ことばの力を育てる・

知的障害教育における教科指導」

～自立活動をベースにした教科指導の充実～

# これまでの研究から①

児童・生徒の実態を把握し、課題である特定の言語機能や学習内容に**焦点化**して研究を行った。



これらの力が足りないと、ある場面で、あるつまずきがあって、思考できないか、判断できないか、表現できないかに陥ってしまう。

# 言語機能アセスメント

項目		評価					
発語	① 構音の明瞭さ	不能	不明瞭		一部不明瞭		明瞭
	② 流暢性	なし	非流暢		一部非流暢		流暢
	③ 自発語の長さ	発声なし	単音	単語	2語文	3語文	4語文以上
	④ 自発語の内容	発声なし	喃語	意味不明	一部意味不明		有意味
	⑤ 発語の運用	なし	乏しい		不適切		適切
復唱	⑥ 復唱の長さ	不能	単音	単語	2語文	3語文	4語文以上
言語理解	⑦ 聴覚把持力	不能	1ユニット	2ユニット	3ユニット	4ユニット	5ユニット
	⑧ 理解水準	不能	単語		動作語	性質語	関係語

言語機能アセスメントは8項目すべてを試行し、  
 児童・生徒の言語機能について多面的な見立てをします。

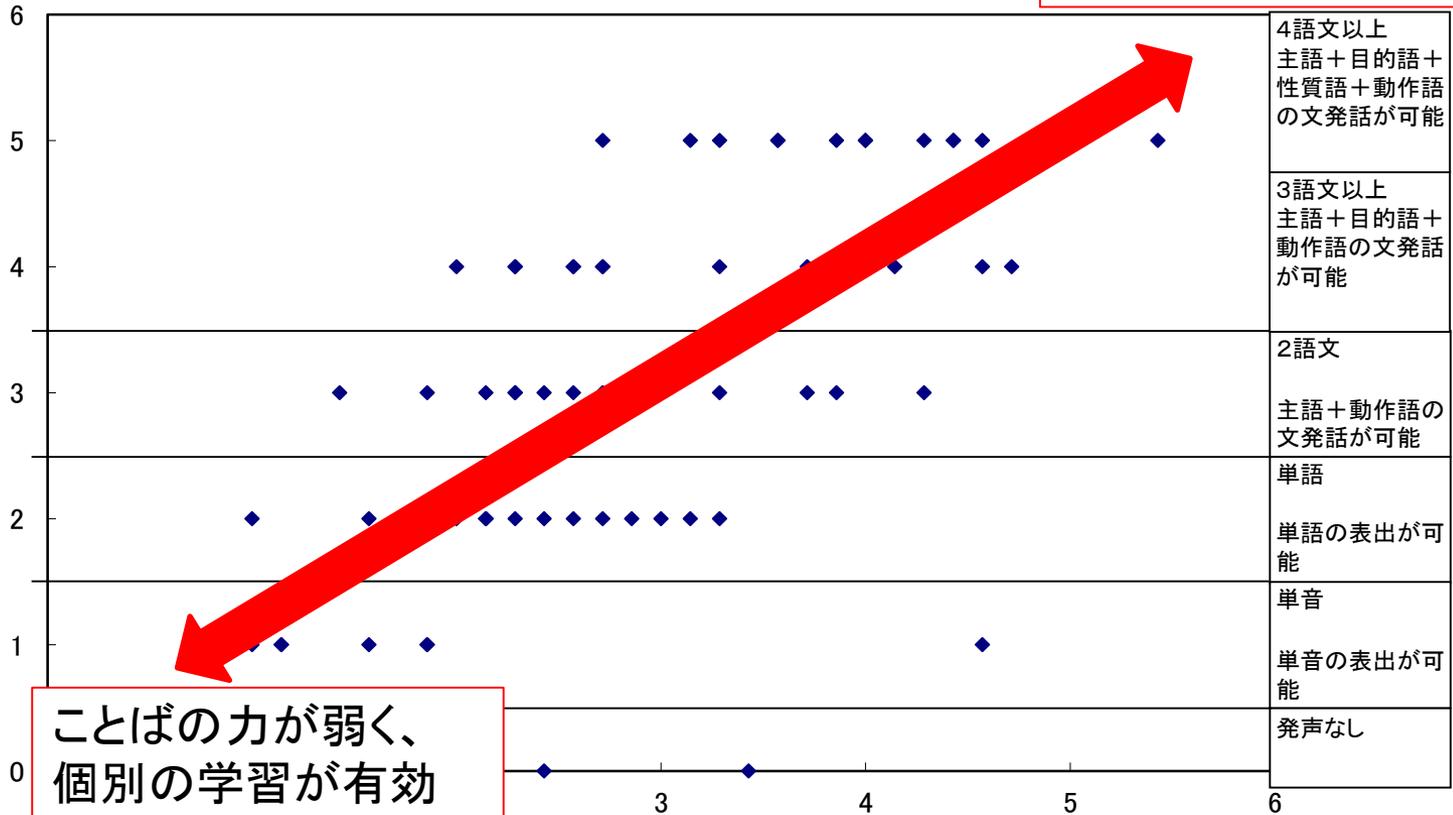
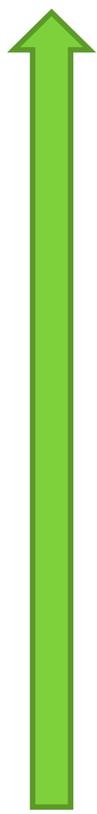
# 7つのキーポイント(J☆sKep)

① 学習態勢	自ら学習する態勢になる力
② 指示理解	自ら指示に応じる、指示を理解できる力
③ セルフマネージメント	自ら自己を管理する、調整する力
④ 強化システムの理解	自ら楽しいことや嬉しいことを期待して活動に向かう力
⑤ 表出性の コミュニケーション	自ら何かを伝えようとする意欲と個に応じた形態を用いて表出する力
⑥ 模倣	自ら模倣して、気づいたり学んだりする力
⑦ 注視物の選択	自ら課題解決のために注視すべき刺激に注目できる力

自閉症以外の子ども達にとっても必要な学ぶための力

# 本校児童・生徒の実態について

上に位置するほど、言葉を巧みに使える



一斉指導が可能であり、  
一見、ことばにつまずきが  
ないように見える生徒。

ことばの力が弱く、  
個別の学習が有効



右に位置するほど、自ら学習に向かう力が高い

# これまでの研究から②

“分かって”動くから“考えて”動くへ

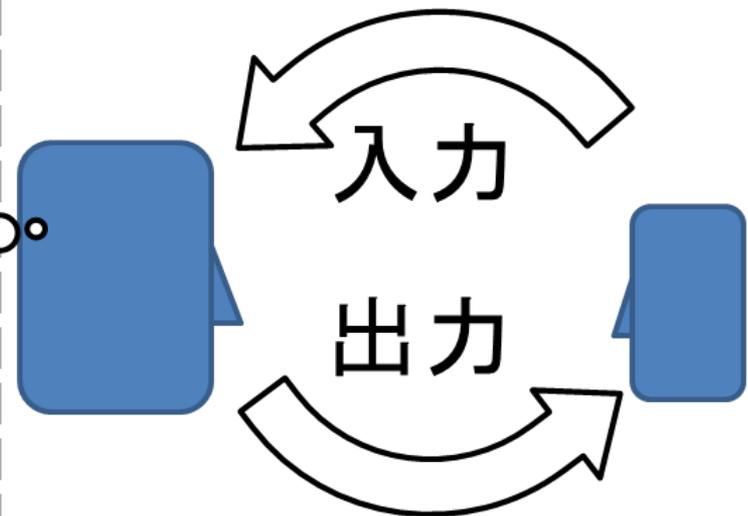
各教科の目標を  
達成させる思考



考えさせるには...

- ・発問はどうあるべきか
- ・教材はどうするか など

- ・アセスメントに基づいた配慮
- ・教材の提示 など



- ・コミュニケーションツール
- ・音声言語
- ・身体表現 など

「ことば」を活用して、児童・生徒が「思考・判断・表現」できる授業を実践する

# 本校の指導のベース

分かる授業がことばを引出す

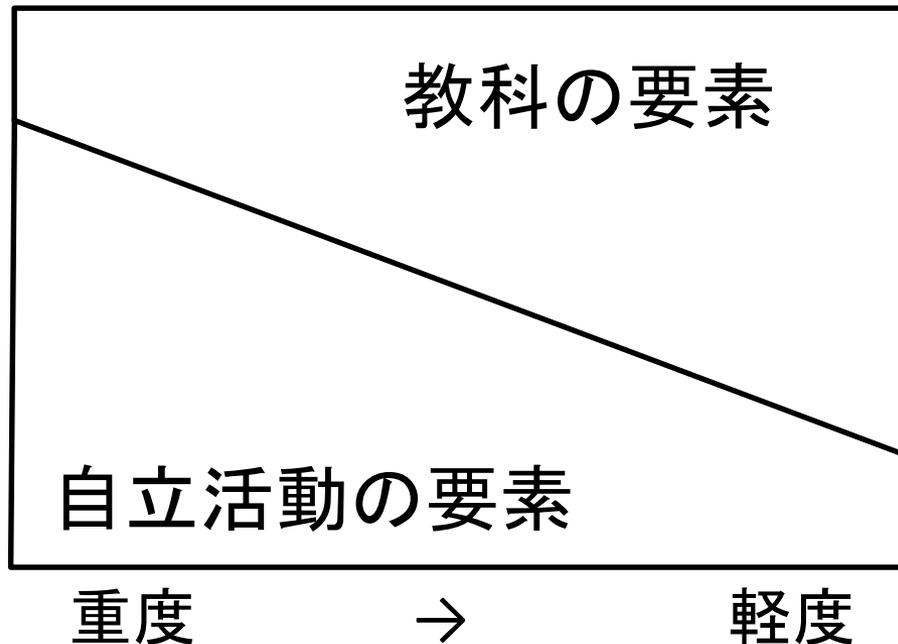
- アセスメント
- 障害特性の理解
- 日々の観察
- 構造化
- 刺激の軽減
- 動線の工夫
- 学習形態
- ICT活用
- 教師のことば



- 教師のことば
- 強化子の選定
- 即時評価
- スケジュール
- 手順書
- コミュニケーションブック

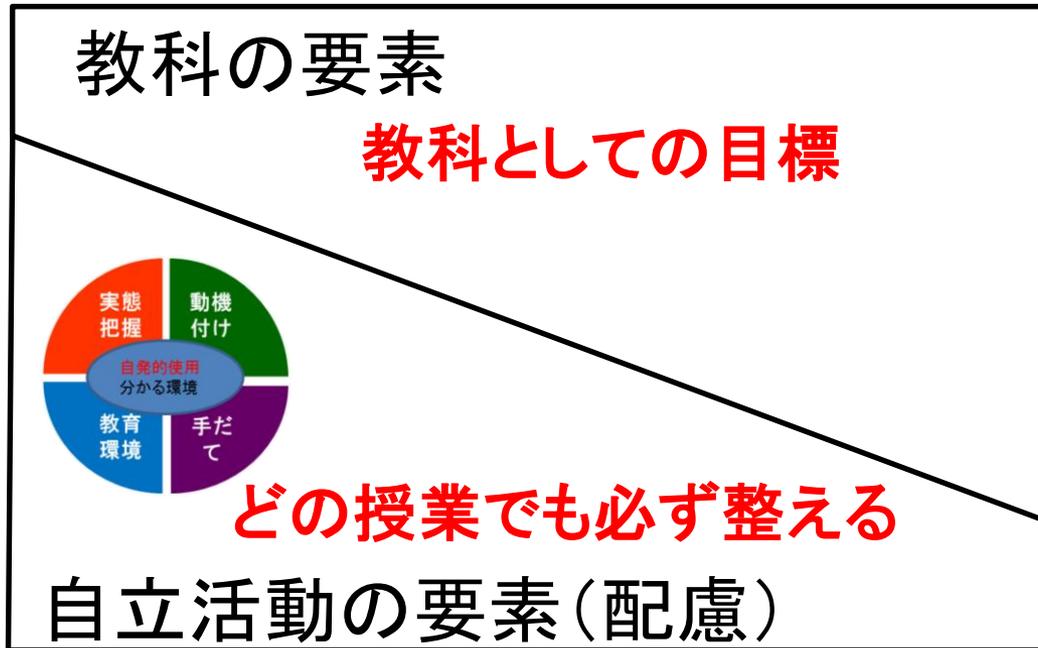
# 教科学習を充実させる学校

## 知的障害特別支援学校の教科指導



- 知的障害教育における教科には、自立活動としての要素を必ず含めます。
- 教科の授業なので、教科の目標を立てます。

# 教科学習を充実させる学校



自立活動の要素を整えて  
教科指導の充実を図ることが目標

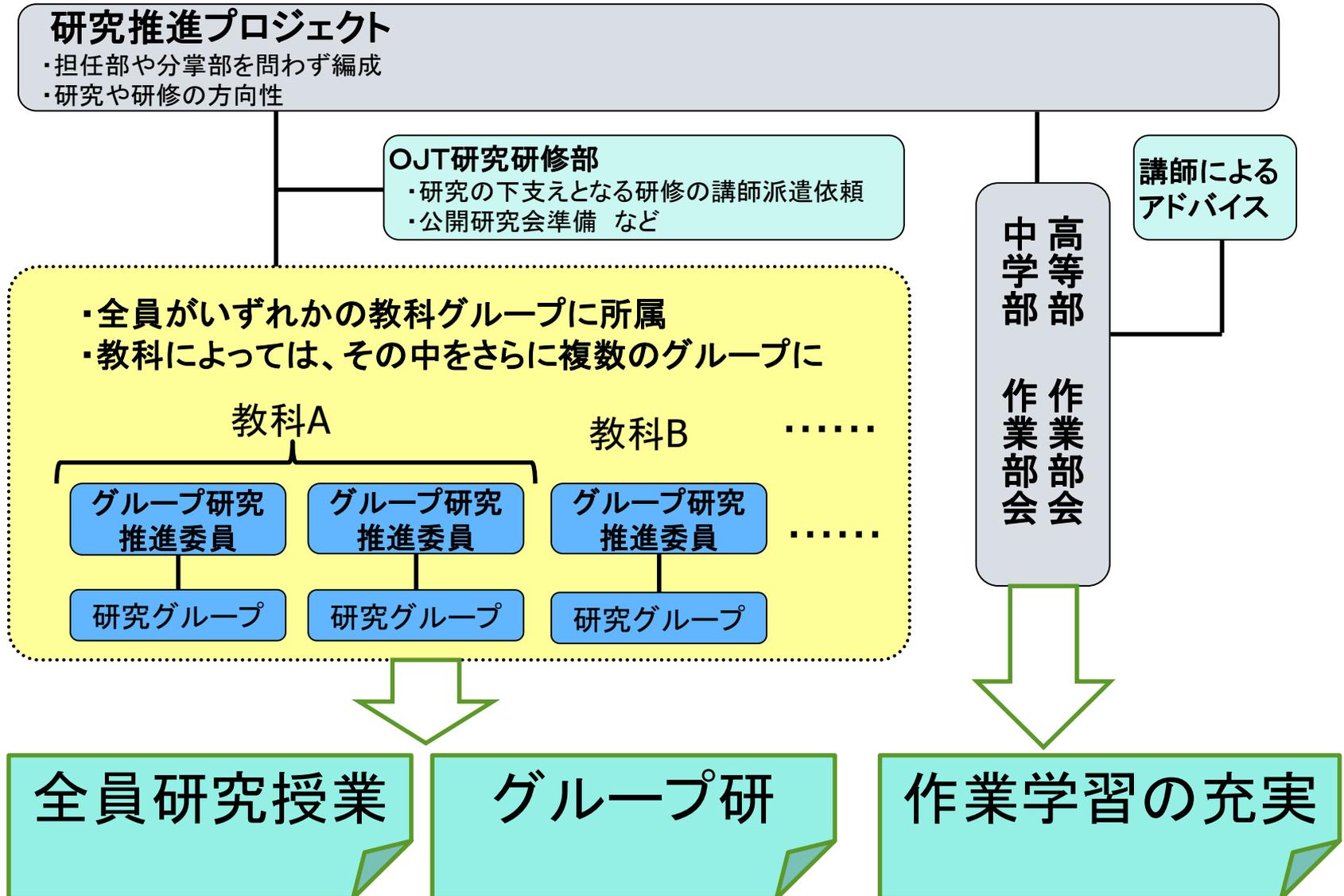


このような授業のデザインを  
**知的障害教育における教科指導** として発信

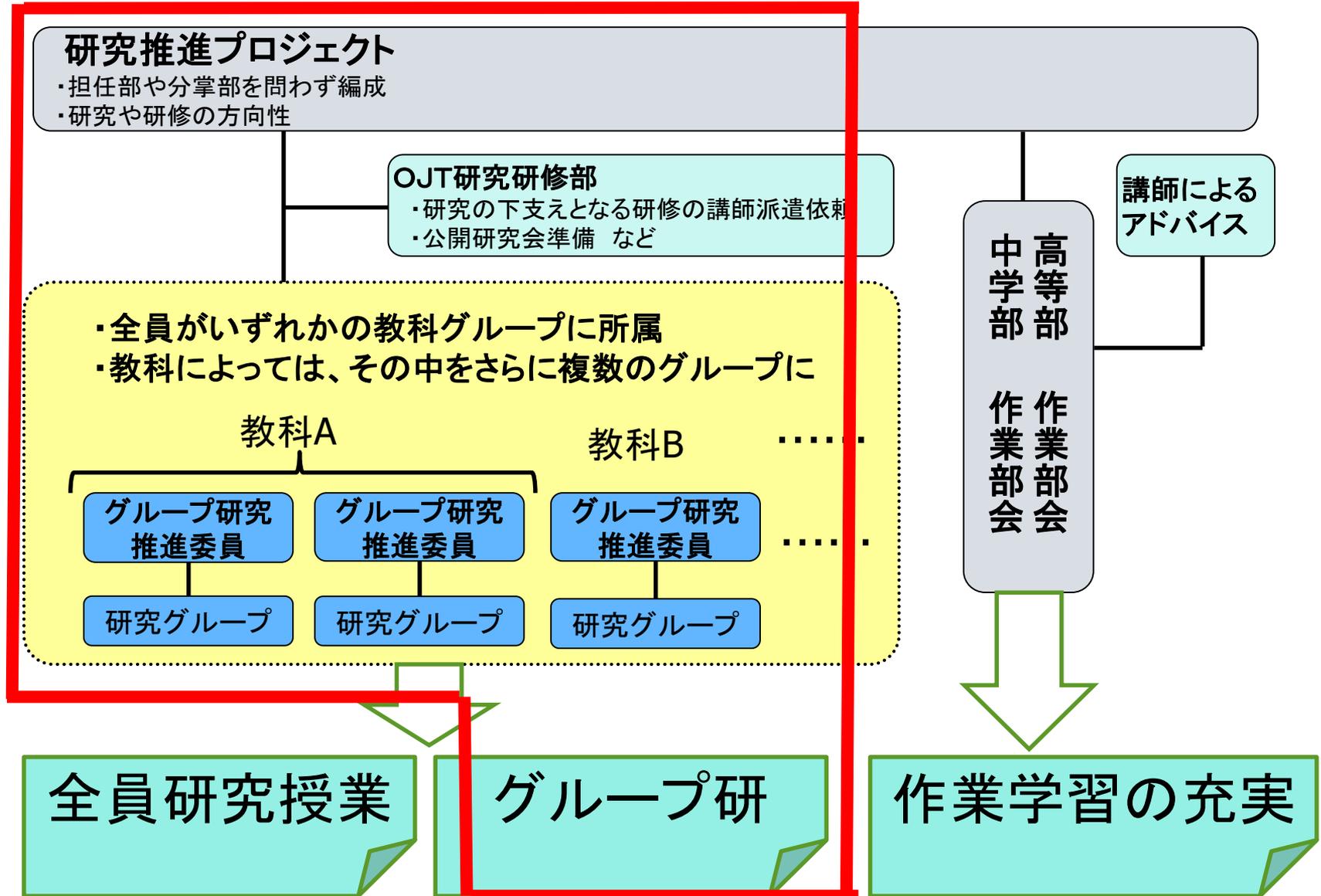
# 研究・研修計画

- **グループ研究【全教員】**
  - 希望する教科・領域ごとに小グループを作り、研究を行う。
- **全員研究授業【全教員】**
  - 授業を持っている教員は、グループ研究で所属したグループの教科で、年1回以上研究授業を行う。
- **作業学習の授業改善**
  - 講師のアドバイスにより、改善を行う。
- **教材教具発表会【全教員】年2回**
- **研究活動や学校課題のテーマに沿った研修**

# 研究組織体制



# 研究組織体制



# 組織内での役割

- プロジェクトチームで研究スタイルの構築

- 協議会の進め方の提示
- 研究紀要の執筆方法

研究のデザインを  
統一する



- グループ研究推進委員の役割

- グループ研究の進行管理
- グループ研の協議会の進行
- 中間発表会・公開研究会等での発表

グループごとに  
自立した運営



- グループメンバーで行うこと

- 研究授業対象者の選出
- チェック表を活用した授業評価
- 指導方法や教材のアイデアを出し合う
- 研究紀要の執筆

全員参加での  
研究活動

# 研究グループ編成について

- ◆ 所属グループは、所持免許で自分がもっている授業を基本とする。教科グループ原案は、プロジェクトチームが作成する。
- ◆ 今年度は、国語、算数(数学)、図工・美術、音楽、体育、家庭、理科、社会、情報、英語、職業とする。
- ◆ 国語、算数(数学)は、学部ごとに編成する。
- ◆ 図工・美術と音楽は小中高縦割りとする。
- ◆ 家庭科は中高縦割りとする。
- ◆ 理科、社会、情報、英語、職業は高等部のみで編成する。

# 各期ごとのグループ研究の流れ

**研究授業**

iPad等で授業の様子を取る



**事後協議1**

ビデオによる観察



**事後協議2**

ねらいが達成できたか検証・改善  
達成できた→検証 達成できなかった→改善



**検証・改善授業**

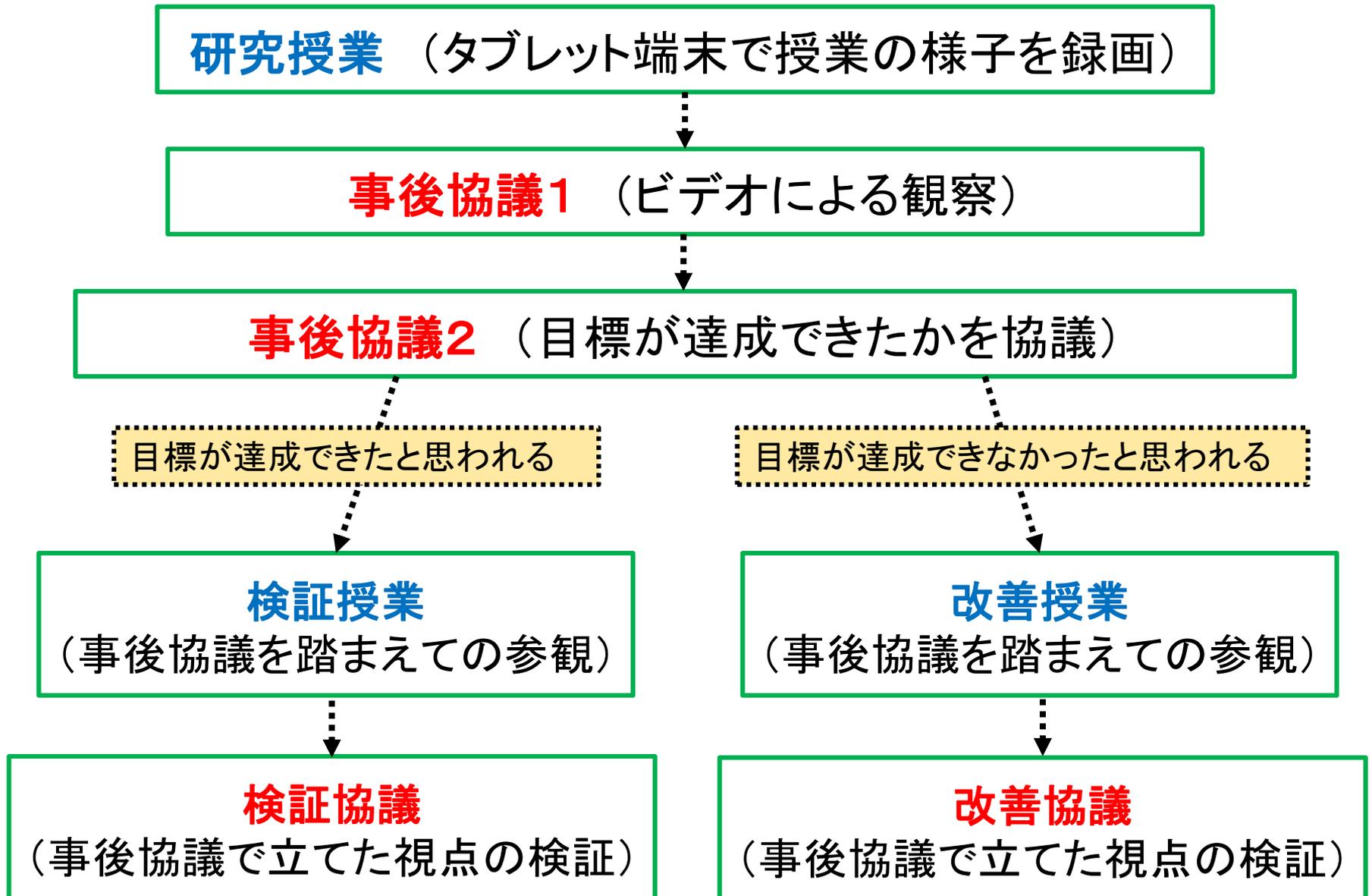
事後協議を踏まえての参観



**検証・改善協議**

事後協議で立てた視点の検証

# 各期ごとの研究の流れ(フローチャート)



# これまでの研究活動で培ってきたものの維持

都立八王子特別支援学校 平成27年度 児童・生徒実態表				
授業者	八王子 特子	所属研究グループ		対象児童・生徒
日時	6月20日	場所	1年1組	イニシャルで
対象児童・生徒の実態				
チェックをつける 複数可				
コミュニケーションの手段				
<input type="checkbox"/> 動作 <input type="checkbox"/> 発声 <input type="checkbox"/> サイン <input type="checkbox"/> 絵カード・写真カード <input type="checkbox"/> コミュニケーションブック <input type="checkbox"/> 音声言語				
言語機能アセスメント リストから選択				
項目		<p>言語機能アセスメント</p> <p>①構音の明瞭さ ②流暢性 ③自発語の長さ ④自発語の内容 ⑤発話の運用 ⑥復唱の長さ ⑦聴覚的把持力 ⑧理解水準</p>		
①構音の明瞭さ				
②流暢性				
③自発語の長さ				
④自発語の内容				
⑤発話の運用				
⑥復唱の長さ				
⑦聴覚的把持力				
⑧理解水準				
J☆sKep 数値を入力		<p>J☆sKep</p> <p>①学習態勢 ②指示理解 ③セルフマネジメント ④強化システム ⑤表出性コミュニケーション ⑥模倣 ⑦注視物の選択</p>		
項目				
①学習態勢				
②指示理解				
③セルフマネジメント				
④強化システム				
⑤表出性コミュニケーション				
⑥模倣				
⑦注視物の選択				
平均				
必ずALT+Enterで改行してください				
アセスメントから導き出される対象児童・生徒の状態像を基にした配慮や課題				

研究授業指導案に、アセスメント結果を入力

## わかる授業のための4つのベースチェック表

J☆sKep3点以下は、すべてにチェックがつかうことが必要です  
J☆sKep3点以上は、授業によっては黄色い部分のチェックはつかない場合があります。

	事前チェック	項目
実態把握	<input type="checkbox"/>	J☆sKepを取った
	<input type="checkbox"/>	言語機能アセスメントを取った
	<input type="checkbox"/>	行動観察を行った
教育環境	<input type="checkbox"/>	一目でわかるような動線、位置等の構造化を行った
	<input type="checkbox"/>	視覚的な情報を用意した(絵、写真、カード等)
	<input type="checkbox"/>	ことばの量、音量に配慮する
	<input type="checkbox"/>	聴覚的把持力に見合った言葉の使い方に気をつける
	<input type="checkbox"/>	J☆sKepの点数に見合った学習形態を準備した(3点以下は静態的、3点以上は流動的)
	<input type="checkbox"/>	黒板を整理し、刺激を低減し、注目しやすいように準備した
	<input type="checkbox"/>	左から右、上から下のように情報を整理した
動機付け	<input type="checkbox"/>	流れを構造化した(ルーティン)
	<input type="checkbox"/>	センソリースペースを準備した
	<input type="checkbox"/>	興味関心、好子を把握した
手立て	<input type="checkbox"/>	即時評価を行う
	<input type="checkbox"/>	好子を評価に活用する
	<input type="checkbox"/>	個別のスケジュール、手順書を用意した
	<input type="checkbox"/>	本時のスケジュールを用意した
	<input type="checkbox"/>	個に応じたコミュニケーションの手立てを用意した
	<input type="checkbox"/>	リマインダーを準備した

授業をするにあたって大切なことを、チェックリストで確認

# 本校の指導のベース

分かる授業がことばを引出す

- アセスメント
- 障害特性の理解
- 日々の観察
- 構造化
- 刺激の軽減
- 動線の工夫
- 学習形態
- ICT活用
- 教師のことば



- 教師のことば
- 強化子の選定
- 即時評価
- スケジュール
- 手順書
- コミュニケーションブック

# チェックリスト(ベースチェック表)を用いた授業づくり

## 実態把握

- J☆skepを取った
- 言語機能アセスメントを取った
- 行動観察を行った

## 動機づけ

- 興味・関心、強化子を把握した
- 即時評価を行う
- 強化子を評価に活用する

# チェックリストを用いた授業づくり

## 教育環境

- ☑ 一目でわかるような動線、位置等の構造化を行った
- ☑ 視覚的な情報を用意した(絵、写真、カード等)
- ☑ ことばの量、音量に配慮する
- ☑ 聴覚的把持力に見合った言葉の使い方に気をつける
- ☑ J☆sketの点数に見合った学習形態を準備した(3点以下は静態的、3点以上は流動的)
- ☑ 黒板を整理し、刺激を低減し、注目しやすいように準備した
- ☑ 左から右、上から下のように情報を整理した
- ☑ 流れを構造化した(ルーティン)
- ☑ センソリースペースを準備した

# チェックリストを用いた授業づくり

## 手だて

- 個別のスケジュール、手順書を用意した
- 本時のスケジュールを用意した
- 個に応じたコミュニケーションの手立てを用意した
- リマインダーを準備した

# 「授業デザインシート」を活用して授業を焦点化

単元目標設定	学習指導要領(H21告示)の根拠を明記
行動観察	目標を達成するために必要な実態だけを記入
手立て	目標を達成するための具体的な発問や教材にだけ記入
評価	どうあった場合に本時の目標を達成できたかのみならずのかを明確化

# 「授業デザインシート」を活用して授業を焦点化

## ①デザインシートの「目標を達成させるための手立て」について

- ・文言を「目標を達成させるための具体的な発問や教材等」とする。

↳具体的に記述することで、協議を進めやすいと考えた。

## ②デザインシートの「単元の目標に対する行動観察」について

- ・欄を目標欄の下に移動させる。
- ・(児童・生徒の実態)の文言を加える。

↳実態を書く欄なので、単元の設定欄に移動した上で、実態を書くことを明示することで記載間違いがなくなると考えた。

# 「協議会シート」を活用して協議を焦点化

## グループ研究【研究協議(1/2)】

1回目の研究協議会で配布し、ビデオによる評価 ※グループ名以下は事前に入力

ビデオを通じた研究授業の参観	20
授業を評価する付箋の記入し、推進委員に提出 目標が達成できた○ できない× どちらともいえない△ 加えて、その理由もご記入ください 集約された付箋は、②シートに入力し、次回の協議会で配布	10

グループ名 (協議会会場)		
対象と指導	学習グループ	
	指導期間	
	指導場所	
	単元の目標	
本時の目標	最初の本時の目標	
単元の目標に関する行動観察	.	
目標を達成させるための手立て	.	

本時の展開	学習活動	指導の工夫 教員の支援

どういった場合に本時の目標を達成できたかみるのか?	
---------------------------	--

## 【事前協議①】

- ・1回目の研究協議会前に授業者が入力
- ・本時の目標について確認  
→本時の**目標が明確**であるか(評価できるものか)  
→教科の**目標としてふさわしい**ものであるか
- ・本時の展開には、本時の目標を達成するための**指導の工夫**について入力
- ・本時の目標を達成するために必要な**手だて**について明確化
- ・本時の目標を評価する規準(**目標を達成できた**)について協議を明確化
- ・1回目の協議内容の結果を2回目のシートにも反映

# 「協議会シート」を活用して協議を焦点化

## グループ研究 [研究協議(2/2)]

2回目の協議会で配布し、協議 ※本時の目標に関する評価は、前回の付箋の記述を事前に入力

協議会シート②に基づき、授業の目標が達成できたか否かを評価 目標が達成できたorできなかった理由を補記	10
できた場合…奏功したと考えられる要因を分析→次回以降の授業で活用 できなかった場合…授業改善のアイデアを自由意見で尋ねる→次回以降の授業で修正	20

本時の目標に関する評価 ○できた ×できない △どちらともいえない	

以上より、本時の目標は達成 以下、効果を示された理由or改善に向けたアイデアについて検討	とみなされる。

## 【事前協議②】

・本時の目標を達成できたかを協議

《本時の目標を達成できた場合》

- なぜ達成できたのかの意見を記述
- 奏功したと考えられる要因を分析

《本時の目標を達成できなかった場合》

- どうすれば達成できたのかの改善アイデアの意見を記述
- どんな授業改善をすれば目標を達成できたのかを協議して採用するアイデアを検討
- 協議をする中で、新たに別の目標を立てる場合は新たに立てた本時の目標を検討

# 「協議会シート」を活用して協議を焦点化

## 【検証・改善協議】

- ・2回目の研究協議であげられた意見や改善のアイデアについて評価

### 《本実践でわかったことを協議》

- (1) 本研究の結果(事実)
- (2) 教科指導の課題
- (3) 教科指導を行う上でのポイント

#### グループ研究【研究協議3回目】

3回目の協議会で配布し、協議 ※授業の様子を撮影した端末を用意

ビデオを通じた授業の参観 (前回は協議された、効果が示された理由or改善に向けたアイデア に係る場面を中心に)	10
教科指導を行う上でのポイント、課題 正解はきっとないので、今回の授業から見出された意見を自由に→研究紀要に向け	20

#### 研究紀要に向けて

##### 本授業を通して、

・〇〇のような実態の児童or生徒に〇〇の支援を行ったところ〇〇であった(この部分が結果、指導の結果としての事実をそのまま書く)。

・以上のことから、「〇〇」といった観点に基づく指導を行うことにより、児童or生徒にとって〇〇のような効果があることがわかった(この部分がまとめ、今回の研究授業や協議の結果から、検討されたことについて、推測ではなく、根拠のある結論を書く)。

ことが分かった。

といった課題が示された。

#### 国語 を行う上でのポイント

国語を行う上で、内容・指導方法・教材などについて、有効であると感じたことを箇条書きで

論点の整理

円滑な進行

校内の一貫性

# 「協議会シート」を活用して協議を焦点化

## ①「教科指導を行う上でのポイント」について

- ・記載欄を「本授業を通して～」の欄の下に配置換えをする。
- ・「教科指導」ではなく、**具体的な教科名**を記載して、その教科について記載できるようにする。
- ・それぞれの教科を行うにあたって、内容や指導方法、教材などについて、有効であると気づいたことを**箇条書き**で記載する。

## ②「研究紀要に向けて」について

- ・〇〇の実態の児童・生徒に対して、目標を達成させるために、〇〇のような発問や教材等の工夫をした。達成した(達成できなかった)理由は〇〇である。といった、プロセスが語れるような書き出しを工夫する。

「自立活動」をベースにしたことで

## 児童・生徒が自発的に取り組む授業

◎児童・生徒が自発的に学習に取り組むようになりました。

◎自発的に取り組めることで、  
教員は教科のねらいに指導を絞ることができました。

「自立活動」をベースにしたことで

## 児童・生徒が「答え方」が分かる授業

◎児童・生徒がもっているコミュニケーション手段と方法で教科で学んだ思考を表現できるようになりました。

「自立活動」をベースにしたことで

## 児童・生徒が「学び方」が分かる授業

- ◎表現や思考の「型」を通して、児童・生徒が教科の授業でめあてを達成できました。
- ◎児童・生徒が授業や場面が変わっても、身に付けた知識やスキルを使って思考・判断・表現できるようになりました。

研究全体の成果として

## 教師が研究協議に専念できる構造化された 研究組織と研究活動

◎研究活動を構造化することで、短い時間でも高い成果を上げる研究活動ができるようになりました。

「高い成果を上げる  
研究組織の構築と仕組み作り」